



ハワイの乾いた大地に、新たな実りを。



アジアの食卓へ、日本品質を届ける。

2大学が挑む、国境と常識を超えた次世代稲作

東京農工大学と新潟大学(J-PEAKS採択校)による本シンポジウムでは、日本の稲作を国際市場へ転換する「外向き」の戦略を議論します。ハワイでの陸稲栽培や東南アジアへの品種展開などの事例を通じ、海外市場起点の研究開発や、温室効果ガス削減による経済価値創出を検討。気候変動対応と収益性の両立を図り、技術・品種・流通のバリューチェーン全体で日本発の「強いお米」を世界へ広めるための持続可能な勝ち筋を提示します。

農工大・講演者



安達 俊輔 教授

農工大・講演者



田中 一生 客員教授

新潟大・講演者



山崎 将紀 教授

新潟大・講演者



藤巻 義博 教授

新潟大・講演者



宮本 託志 准教授

開催日:2026年7月10日(金)

会場:東京農工大学 府中キャンパス

タイムスケジュール

14:00-14:05 開会挨拶

14:05-14:35 東京農工大学の研究者プレゼン

14:35-14:50 休憩

14:50-15:20 新潟大学の研究者プレゼン

15:20-15:30 休憩(ディスカッションのための配置変換)

15:30-17:00 生産者の声を聴きながらディスカッション

17:00-17:05 閉会挨拶

17:30-19:00 懇親会(事前登録者のみ)

ファシリテーター



農工大
山中 晃徳 副学長
(J-PEAKS・連携強化担当)

「日本の「コメ」は、世界の「勝ち筋」になれるか。